

Kasugaoka J.H.S

# 明日への扉

アスヘノトビラ

令和2年10月号

京都市立春日丘中学校

## 道徳通信

\*\*\*学校教育目標\*\*\*

『すべての子どもの  
学習機会の保証』

朝晩の冷え込みも日を追うごとに厳しくなり、これからやってくる冬の訪れを感じられる季節となりました。あんなに暑かった夏が、遠い前のように感じてしまいます。気づけば、今年もあと2ヶ月で終わってしまうと考え、時が過ぎるのは早いなとつくづく感じる今日この頃です。

毎年10月下旬に行われる生徒会役員選挙。今年も先週23日(金)に行われました。今年度は例年とは違い、zoomにて立会演説会が行われました。限られた時間でしたが、立候補者のみなさんが、緊張しながらも自分の思いを最後までしっかりと話す姿を見て、頼もしさを感じました。新生徒会本部役員になった人は、このときに話した自分の思いを忘れず、3年生から2年生へ渡された“バトン”をしっかりと受け継いで、さらに素敵な春日丘中学校を目指して頑張ってください。もちろん、生徒会本部役員だけでなく、みなさん一人ひとりの協力が必要です。春日丘中学校全員で、学校をさらに盛り上げてほしいと思います！

さて、次のテストまで3週間をきりました。日々の授業はもちろんですが、自分の目標に向かって、今できることを全力で頑張っていきましょう！



\*-\*-\*-\*-\***授業の様子を紹介します**\*-\*-\*-\*-\*



### “どうせ無理”という言葉に負けない

植松努さんの夢は将来宇宙に行くことでした。でも周りの人からは「お前なんかには、どうせ無理だ。」「何それ、カッコつけ?」「宇宙なんてのは偉い人が考えることで、私たちには関係のないことだ」と言われ続けていました。その植松さんを支えたのはエジソンやライト兄弟などの偉人と呼ばれる人たちの活躍でした。植松さんのエピソードを通して、好奇心をもって意欲的に取り組み、新しいものを生み出そうとするために必要なものとは何か、中学生であるみなさんには今どんな可能性が秘められているのか、考えました。

《ワークシートより（授業の感想）》

- 私、どうせ無理だ、と思ってあきらめることが多かった。でも植松さんの話を聞いて、今までの考え方を改めて「じゃあ、こうしてみたら?」の考えで行動をしていきたいと思った。
- 僕も宇宙なんて、自分には関係ないし、無理な話だと思っていたけれど、それは自分が決めただけで、何もやっていないので、これからどうなるかわからないんだなということに気づいた。
- 植松さんの話を聞いて、なんで勉強をするのかわかった気がした。今まではお金が稼げるからとか、将来が楽になるからだと思っていた自分が恥ずかしくなった。
- 今の自分には可能性がいっぱいあるんだなということがわかった。どんなことも、諦めずチャレンジする気持ちをもって取り組んでいきたいなと思う。
- 今までは、苦手な授業だと、半分諦めてしまっていたけれど、それはもったいないことなんだとわかった。これからは気持ちを入れ替えられたらいいなと思う。



## “本当の私”

おつりを多くもらってしまったとき、あなたならどうしますか？正直に言いますか？それともそのまま黙って帰りますか？今日の物語の主人公は、オリンピックにも出場したアスリート“エイミー”で、実際にあったお話です。きっとばれないから大丈夫、そう自分に言い聞かせドーピングをしてしまったエイミー。その結果、オリンピックでは見事金メダルを獲得しました。しかし、本当にこれでいいのかとエイミーは悩みます。そして、このままではいけないと気づき、すべてを打ち明けました。

人は誰もが心の中に“弱さ”や“醜さ”を持っています。ただ、その弱さに負けてしまい、自分をごまかし続ける人生は果たして“本当の自分”と言えるのでしょうか？エイミーのように、最後はその弱さに打ち勝ち、自分に恥じない、誇り高い生き方をする事で、よりよい人生が送れるのではないかと思います。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分がしたことをちゃんと告白したエイミーさんはカッコいいなと思った。エイミーさんみたいに悪いことをしてもしっかり告白して、償おうと思う。
- ・正直に言える勇気があることがすごいと思う。もし、このようなことがあったら僕も正直に言おうと思う。
- ・まわりは気づいていないけど、自分の罪をずっと抱えるより正直に話すほうが大切だとわかった。
- ・エイミーさんはとっても勇気のある人だ。自分に正直でいいなと思う。もし、私がこんな場面にあったら、自分も自分らしくいれたらいいなと思う。
- ・自分に正直で素になれる人になりたい。正真正銘の1位を獲得するために自分自身と向き合うことが大切だと思った。



## “言葉おしみ”

駅の改札でもたついているとき「すみません」と後ろの人に声をかけました。後ろの人は軽くうなずきはしましたが、何も言わず…。こんなとき、あなたはどう感じますか？ロールプレイをしてもらって“感じが悪いなあ”“聞こえてないのかな？”“うなずいてくれたから大丈夫”など、感じ方はさまざまでした。作者は『言葉おしみ』の場面が多くなってきたと感じています。たった一言、声にだして伝えるだけで相手が安心したり、雰囲気よくなったりします。「ありがとう」に対して「どういたしまして」、「すみません」「大丈夫ですよ」など、相手に伝えられる人であってほしいと思います。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・人と人との間には言葉が必要だと思った。互いにいい気分になるためにも、コミュニケーションは大事だと思う。言葉がないと気持ちは読み取れないから、声に出して気持ちを表すことが大切。
- ・何気ない一言でもその場の雰囲気をやわらかくしたり、言ったほうも言われたほうもやさしい気持ちにしてくれるから、その一言を大切にしていきたいと思った。
- ・「ありがとう」「どういたしまして」と言われて嫌な気持ちになる人はあまりいないと思うから、自分で勇気を出して惜しみなくそういう言葉を書いていこうと思った。それを他の人に強要することは違うと思うから、自分は言える人でいたい。
- ・「ありがとう」は言う機会が多いけど、「どういたしまして」は言わないことが多いと思った。自分は言われなくても気にしないことでも相手は気にしているかもしれないから、できるだけ言うように心がけたいと思った。